

はじめまして

小海診療所 木下 裕介

「こんなふうにいる医者もいるんだな…」

地域医療と私との出会いは、青森県下北半島にある^{ひがしどおりむら}東通村診療所だった。診療所長の先生は、大学を卒業後、外科医として勤務されたのち、故郷へ戻って来られた方。そこで私が目にしたのは、怪我の治療はもちろん、インシュリンで糖尿病の治療をしたり、皮膚を顕微鏡で調べて水虫の薬を処方したり、患者宅を訪問して診療を行ったりと、地域のあらゆることに対応する医師の姿であった。それは、これまでに見たどの医師とも違って、新鮮であった。



「こんな医者になりたい…」

医学部5年生の夏休み、東北旅行の途中で泊めてもらったこの診療所が、私の進路を決めた。

それから20年弱、日本の多くの地域で仕事をさせてもらった。伊豆、岐阜、茨城、宮崎、そして佐久。どの地域にも、そこで暮らす人たちのことを大切に考える医療者がいた。彼らとともに働き、“人を診る”ことを教わった。

おこがましいことは十分承知している。しかし、若い人たちが、私の泥臭い診療を見ることで、医療者として、人として、大きく成長してくれれば、これに勝る喜びはない。



JR小海駅舎に併設されている小海診療所（右側1階）